

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～県高生は・・・「読書の3学期！！」にしませんか？～

3学期の始業式で・・・「**高校生の3学期は、たくさん自分の時間が取れる学期です。**」という話をしました。さて、学年末考査も終わりました。

ところで・・・本は・・・「全く読まない人」と、「たくさん読む人」に二極化されます。

そして、本を読まない人は往々にして「なぜ本を読まないといけないのか？」「本を読むとどんないいことがあるのか？」と同じ疑問を口にします。

そんな疑問の一つの答えを書いた漫画が話題になりました。どんなやりとりかという・・・

A：「なぜ読書をしなければいけないの？」

B：「なぜ読書をしなければいけないのか・・・それは本を読んだ人にしかわからない。」

「本を嫌いな人や読んだことのない人に『如何に本を読むのが素晴らしいか』を説いたところで理解してもらえない。そもそも本に興味がないんだからその解説自体が苦痛でしょ。でもこれだけは言える・・・読書家は皆『なぜ本を読まなければいけないか』また、『別に本を読まなくてもいい』それぞれに対する答えを持っていて、それを説明できる。」

「読書が必要か不必要か。その答えは読書をした人にしか分からないのよ。」

「あなたの答えは・・・あなたが読んだ本の中に存在する。」

「人類の多くが『本を読め』と言うのが、その答えを知りたいなら本を読みなさい。

あなたの答えは・・・誰も持っていない。」

「だから『なぜ、読書をしなければいけないのか』この答えを他人に求めるのは・・・

ナンセンスだと思いませんか？」

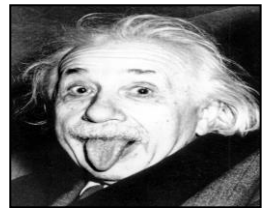
人それぞれ職業や価値観、目指す生き方が異なる以上、本を読むことで何が得られるかはそれもまた人それぞれです。しかし間違いなく言えるのは、「本を読まない人は、自分に読書が必要かどうかを判断できない」ということではないでしょうか。

他人の知恵が結集された本を読むことで、自分の中に新たな世界を切り開けるかもしれないのに、その領域にすら足を踏み入れないというのは非常にもったいないと感じます。もちろん人によっては、「本から学べることは何もない」という人もいるでしょう。ただ、それは自分自身が実際に本を読み進めてみないと分からない、他人には判断できないというのがポイントですね。

自分で「本」を買って読んでみませんか？人から薦められる本もいいかもしれませんが、人から借りるのもいいかもしれませんが、やっぱり自分で本屋に行って、自分の直感で選んで、自分のお小遣いで買って、読むのが絶対いいです。（これがコツ）

アナトール・フランス（フランス小説家・詩人。ノーベル文学賞を受賞。代表作は『シルヴェストル・ボナールの罪』。芥川龍之介が傾倒していたことで有名）もこう言っています。

「**本を人に貸してはならない。貸した本は戻ってこない。私の書齋に残っている本は・・・人からの借り物ばかりだ！！**」 Byーアナトール・フランス



今の自分への、今からの自分への投資として、「読書」始めてみませんか？
「でも続かなかったら、自分を責めちゃいそう・・・」 Byー県立伊丹〇〇さん
「**どうして自分を責めるんですか？他人がちゃんと必要な時に責めてくれるんだから、いいじゃないですか！**」 Byーアルベルト・アインシュタイン（物理学者）



「でもなあ・・・また三日坊主になるしなあ・・・」 Byー県立伊丹〇〇くん
「**三日坊主OK！三日続けたいしたもの**」 Byー松岡修造（元プロテニス選手）